

「32nd ミーティングに関する報告書」(2003.6.7)

■ Strategic Planning <戦略経営研究会> 32nd ミーティング
大学、地域との連携企画 『水窪地域活性研究会』

～情報教育を通じた学生・地域・社会人の三者連携まちおこし～

● 2003年6月7日(土) 13:00～17:40
東京・お茶の水 明治大学・リバティタワー 1085教室

● 主催
Strategic Planning <戦略経営研究会>
明治大学講師(川島高峰氏)

● 参加(49名)
経営、法律、IT関連、大学教員、学生、そして、地域から議員・自治体職員など。
浜松・天竜・水窪・名古屋・大阪・岡山からの参加もありました

● タイムスケジュール
13:00 受付開始
13:20 開始 基調講演・ゲスト講演
14:40 水窪現況説明
15:00 グループ分け。まちおこしプラン発表
16:00 グループ毎に、ブレインストーミング
16:50 ブレインストーミング結果発表
17:20 まとめ講演
17:40 終了

● 概要

前年より、明治大学の情報基礎論の授業にて、Strategic Planning<戦略経営研究会>との協力で、「水窪まちおこし」のプランづくり(大学生100名ほど)が行われています。

水窪まちおこしプランの詳細は・・・

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~shokason/gakusei-teian/gakusei-teian.htm>

この大学生のプランを、発案者である大学生と、当事者の視点としての「水窪地域の人々」と、第三者の視点としての「社会人(専門知識あるビジネスマン)」とが、ブレインストーミングにより、より具体的で実効性のあるプランにブラッシュアップしました。

また、ブラッシュアップされたプランを、水窪町の地域ベンチャー、町長・町議、行政が責任を持って持ちかえていただきました。

このミーティングが提供した価値は、大学は授業改革の一環など、学生は実社会に対応できるプラン策定ノウハウなど、地域は都市あるいは学生との交流による活性化のヒント取得など、社会人は「大学」と「地域」間のコーディネート・コンサルティングを通してのスキルアップなどでした。

・・・多種多様な参加者により、盛況となった会場にて、「水窪とは、どこか？ どういったところか？」、「大学と地域と社会人の連携とは？」ということをご理解いただき、そして、「水窪へ、助力しよう！」という意識を作り出せました。

● 内容

○ 開始 基調講演・ゲスト講演

- ・ 遠隔地参加者ご紹介
- ・ 基調講演「情報教育を介した地域活性」（川島氏）
 - 遠隔地とネットで結ぶ
 - 学生へのモチベーション付与
 - 学外での教育
 - 学生にとっては、水窪は、幻想の中。あるいは、うそ臭い
 - まちおこしプランのプレゼンテーション。学生が評価する
 - P D C A手法
 - 地域活性のためのN P O型シンクタンクへと
- ・ あいさつ「静岡・磐田市の現状」（静岡県議会議員 柏木氏）
 - 政治の改革の必要
 - 議員は高給過ぎるし、自治体職員は多すぎる。しかし、リストラは進まない
 - 民間の活力の利用
- ・ あいさつ「水窪町の森林の現状」（水窪町長 天野氏）
 - 「ヨソモノ」「ワカモノ」「バカモノ」による活性化の必要
 - 現在、森林は放置されている状態。荒れ放し
 - 森林が、美しさから、うっとうしさへ
 - 林業就業者。就業率0. 1 2 %。全国で8万人
 - 伐木しても、赤字。森林の所有が重荷
 - ほとんどが、小規模零細
 - 森林の機能。洪水・渇水対策。災害対策・水の提供。野生生物
- ・ あいさつ「水窪町民の現状」（水窪町議会議員 平澤氏）
 - 郷土愛と、日本の常識への疑問から、議員へ
 - 役職だらけ

娯楽は、他人の詮索
お嫁さんのストレス高い
若者別居には理解があるが。嘆き
自動車の車種とナンバーで運転者が誰かみなわかっている
水窪の住民の親戚関係などすべて把握
古くのエコルート。しかし、余所者には警戒心が強い
性差別が根強い。コンパ×、女性だけの飲み会×
若者あきらめている。楽しみ、週末の浜松
嫁の来てがない
ただし、義理堅い。世話好き。正直
そして、慣れれば、家族同然のつきあい

20年ぶりに水窪に戻ってきて、ガッカリ
二者択一。出て行くか、変えていくか
後者を選ぶ。

できるだけことはやる
専門知識を有する人材の育成
お金と利便性の意識の向上。あるものを利用する
他所との交流。
実際に始めた葬儀ベンチャー。町民の改革の意識を実感

この研究会から、町政への提言をよろしく
町内の若者との橋渡し役になります

○ 水窪現況説明と、ブレインストーミング手法説明（茂木）

水窪。高齢化、過疎化、産業衰退、交通不便
しかし、水窪での「祭り」の体験。コミュニティが生きている祭りに、感動
なんとか、残せないか。そのための、活性策は
また、天野氏の言葉、「水窪が、20～30年後の日本の姿かも」
そして、「水窪プロジェクト」の結成

方言の特殊性
交通。東京からだ、5時間以上
商店街。60店ほどが残存。この地域の都市的役割
自然。カモシカやハクビシン。人を恐れない
施設。悪い公共事業により、林立。しかし、活用されていない
しかし、逆転の発想。あるものを活用する。そういったプラン

人がいない。金がない。それでも、知恵は出していける
高齡。マーケットの中心として
交通不便。希少性として
産業衰退。コミュニティにてお金が回る仕組みを

そして、水窪を知って、考えて、動いていく
というような、モチベーションが参加者と共有できればと

・・・ブレインストーミング。

グループ毎。

「サマーキャンプ」「林業体験」「水窪葬祭ビジネスモデル」「入漁権」
のまちおこしのテーマ。

あくまでも、批判はなしで、建設的な対案を。発散系のやりとりにて

○ グループ分け。まちおこしプラン発表

4グループに。各グループに、戦略研コアメンバーをリーダーとして配置
自己紹介を兼ねた、アイスブレイキング

まちおこしプラン発表 ～パワーポイント使用してのプレゼンテーション

A班 「サマーキャンプ」(明治大学生 岡氏)

・・・地域交流と、教育

B班 「林業体験」(明治大学生 新田氏)

・・・巻き枯らしなど、素人でもできる手法。大学の単位に

C班 「水窪葬祭ビジネスモデル」(水窪葬祭社長 平澤氏)

・・・町民、商店街という地域循環のビジネスとして

D班 「入漁権」(明治大学生 岩本氏。発案 読売新聞 池永氏)

・・・釣り人の立場から、入漁権の地域統一化を

○ グループ毎に、ブレインストーミング

A班 「サマーキャンプ」

・・・生きるための力

中長期的な仕組み

しかし、受け皿は？人材は？経済的な効果は？

一発逆転型発想が抜けきらない

B班 「林業体験」

・・・森は、誰のためにあるのか？

林業専門の学校の創設。

ノルウェー、伐木輸出国、林業はエリートの仕事。IT活用

林業。企業努力というようなことをしているのか？

C班 「水窪葬祭ビジネスモデル」

・・・水窪杉を、葬儀に使えないか？

高値で売れる作物の栽培。ネット販売

炭を販売は？

水窪のHPが古い。学生を活用して、更新を頻繁にしてPR

D班 「入漁権」

・・・天然モノの川魚、多い

家族にも恩典を

滞在時間を増やす工夫

釣り人へ情報発信

配当管理。いかに、モチベーションを

○ブレインストーミング結果発表

各班リーダーより、発表

水窪住民の「意識」の問題であるとの指摘

地域循環ビジネスのアイデア

また、付加価値をいかにするかなど、具体的なビジネスのヒントも

○まとめ講演

・戦略研代表あいさつ（菊池氏）

戦略研の趣旨説明など

・大学助教授よりあいさつ（和田氏）

今回の研究会を踏まえての、情報教育の展望

・まとめあいさつ（川島氏）

地域活性につき、ネットを活用しての、若手・多地域連携

●提供資料

「6 / 7冊子」

「国土交通省 U J I ターンパンフ」

「水窪町パンフ」

「岡山・山陽町パンフ」

「長野・上村パンフ」